

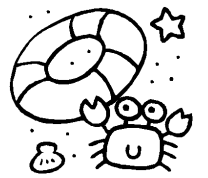
そらうがく

(No. 68)

R3. 7. 7 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



本年度の研究の方針

生活・総合指導員 六ツ美北中学校 廣瀬 浩司

■研究主題■

『主体的・協働的に探究し、よりよく課題を解決する総合的な学習の授業』

■研究の重点■

- ・ 子供が切実感をもち、自分事になる課題設定。
- ・ 「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの過程を繰り返す探究的な学習。
- ・ 多様な学習集団や学習形態の工夫。
- ・ 地域の「人・もの・こと」の積極的活用。
- ・ 評価規準の設定や評価方法の工夫。

■コロナ禍で加速したICTを生かす■

ちょうど一年前に、市内全児童・生徒にiPadが配付されました。スクールタクトを使って、子供の考えを迅速に把握し、全体で共有する活動が当たり前になってきました。また、Zoomを使ってオンラインで遠隔地のゲストティーチャーと出会うのも驚くことではありません。今年度は、さらにICTを使った授業実践が各学校で展開されそうです。しかし、ICTを使うことが目的になるのではなく、ICTを使ったことで子供が何を感じ、どんな問題意識が生まれるのかを念頭に置いてほしいです。そして私たちが実践を進めていく上で大切にしたいのは、子供にとって課題が自分事となっているのかということです。課題が自分事になると、子供の目つき、顔つきが変わります。その瞬間を逃さず、教師がその雰囲気を感じてほしいです。子供と一緒にICTを有効活用し、本気になって課題を探究する実践に期待します。

復権の時

総合的な学習部長 坂元 千城

総合的な学習の時間がスタートしたのは、平成十四年度のことでした。当時は大きな脚光を浴びました。「自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる授業」ということで、子供も教師も総合学習に夢を抱きました。そして、多くの先生方が関心をもち意欲的に実践を行いました。数多くの研究発表会も行われ、まさに「花形の学習」と言える存在でした。

あれから二十年。寂しいことに、その面影が薄くなってきていました。ゆとり教育の象徴的な存在と見られ、学力向上という名目の下、授業時数も削減されていきました。また自由なテーマ選びや学習展開が教員の負担となり、いつの間にかその活動も「例年通り」といった形になっていきました。総合の時間は、かつての勢いを失いつつありました。

ところが今、再び総合学習に光が当たろうとしています。その理由として大きく三つのことが挙げられます。一つ目は新学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」が明記されたことです。この学びに最適なのが、総合的な学習の時間ではないでしょうか。自ら課題を見つけ、その解決方法を模索する中で、友達と協力しながら、自分なりの思いを構築し

ていく。まさに総合学習そのものです。時代が求める学習となったと言えます。

二つ目は、新たなテーマの出現です。総合学習の停滞要因として、テーマ設定の形骸化があると考えています。例年同じようなテーマでの追究が、子供や教師の学習に対する意欲や活気を失っていったように思います。しかし現在、新型コロナウイルス対策やSDGsといった新たなテーマとなりうるものが出てきています。自分の生活に深く関わるこれらの事象は、追究意欲を高めると同時に、新たな発見をもたらしていくに違いありません。

三つ目はタブレット端末の普及です。以前は追究活動を行う時には、主に図書資料やインターネットを活用するだけでした。パソコンの台数も限られ、決して効率よく調べを行うことができませんでした。しかし、タブレット端末を活用すれば、情報をすぐに入力できることができるようになりました。また、友達との情報共有も瞬時にでき、さらに学習のまとめ活動も、タブレット端末上で写真や映像なども取り込みながら、豊かに表現することができるようになりました。タブレット端末の登場は、まさに追究活動の革命と言えます。

さあ、時は来しました。総合的な学習の時間の復権の時です。新たなテーマ、新たな機器を活用して、新しい総合の時間を作り上げていきましょう。

研究・研修報告

矢作南小学校 海藤 健児

日本生活科・総合的学習教育学会主催の第三十回全国大会が、六月十九日(土)、富士市にてオン・オフラインでのハイブリッド形式で行われました。大会のテーマは、「持続可能な社会の創り手を育む生活・総合」でした。この大会が富士市にて開かれた背景には、平成二十五年にESDの推進拠点校としてユネスコスクールに承認された富士市立岩松北小学校があるなど、生活科・総合的学習の時間に入れってきた歴史があるからです。コロナ禍のため授業公開はありませんでしたが、自由発表という形で全国から百を超える実践がネット上で掲載されました。令和元年度から二年間作りを通して学区の問題に気づき、解決に向けて取り組んだ豊富小学校での実践を発表する機会を得ました。掲示板を通じて全国各地の方と意見交流することができました。

Zoomによるパネルディスカッションでは、富士市立岩松小学校、富士市立田子浦幼稚園での実践発表がありました。助言者より、子どもが課題に対して「自分事」として主体的に動き出す単元を構想することで、自己の生き方について見つめ続け、社会の創り手を育むことにつながるお話がありました。



R1年度豊富小5年の実践より
～ぬかたマルシェにて育てた「めぐみ米」を販売～

学び舎の 総合耳寄り情報

三年生はSDGsをテーマに学習し、感じたことや伝えた思いを「SDGs啓蒙ポップ」にまとめました。

生徒は、個人の取組だけでなく、周りを巻き込んだ活動が大切だと考え、効果的な掲示場所を考えるなど、SDGsの目標達成に向けた意欲を高めました。



(矢作中学校 小森 一輝先生)

城北中学校は、今年創立六十周年を迎えました。そこで一年生は、城北中六十年の歩みをまとめられています。

第十代校長である石川春次先生のお話を聴いたり、城北中を卒業した家族にインタビューしたりして新聞の形にまとめられています。



(城北中学校 加藤 光一郎先生)

五年生は、「情報社会を生きる」をテーマに、情報モラルについて学習しました。パスワードは他人に教えない、写真は許可を取ってから撮影するなど、自分を守り、他者を尊重する大切さを学びました。



(福岡小学校 太田 奈穂先生)

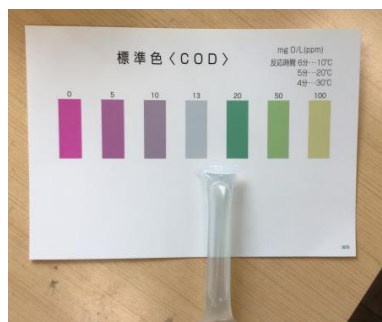
昨年度、三年生は、「大好き！井田っ子ワールド」と題して、学区の好きなところを見つけ、友達に伝える活動を行いました。

特色のある学区の三つのコースを探検し、土地の特徴や店や施設について調べました。学習のまとめとして、自分のお気に入りの場所をマップに示した「おすすめマップ」を作ったり、学区についてのかかるたを作ったりしました。



(井田小学校 中村 緑先生)

四年生は、試薬を使って六斗目川の水質検査をしました。結果は、「科学的酸素消費量」が多く、生活排水による汚染が大きいことが分かりました。今後は、生活排水を減らし、川をきれいにするための活動を考えていきます。



(緑丘小学校 丹羽 千恵先生)

